



日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

一意専心で世界のマーケットに貢献



平成29年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

先ずは、日頃から我が国の筆記具工業の発展のためにご尽力を賜っております会員各社様、本工業会にご理解を頂いています業界団体様、ならびに各委員会・部会にご協力いただいている皆様へ深く御礼申し上げます。本年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、当工業会の2016年第3四半期までの統計(速報)によりますと、主要筆記具※の国内向け出荷状況(推定)は、出荷金額において前年比108%と順調な伸びを示しました。前年を超える成長は2年連続でしたので業界にとって良い一年だったと言えるでしょう。また、輸出金額は前年とほぼ同様でしたが、これは昨年上半期の為替の影響を受けたものと思われます。輸出を数量で見えますと、ボールペンでは105%、マーキングペンでは110%と堅調な伸びを示しました。当期も日本製筆記具の拡大と成長をけん引したのは、なんと申しまして各メーカーが新機構開発、新製品開発、プロモーションに努力した結果です。本年も引き続き、文房具における開発立国として世界のフロントランナーの座を守っていきたいと思っております。(※主要筆記具：ボールペン(水・油性) マーキングペン、シャープペンシル、鉛筆)

ところで、昨年は世界の政治経済が大きく変化したことはご承知のとおりです。想定をはるかに超える天変地変も起きました。このように変化の激しい時は自らの社会使命に立ち返ることが大切なことではないでしょうか。他に心を動かされず、ひたすら一つのことに心を集中することを「一意専心」と申しまして、古く、製造業が好んで使った言葉でしたが、いまはそうした原点に立ち返る時ではないかと思うのです。我が工業会が培ってきたモノづくりの文化はゆるぎないものであると信じ、本年も「新製品開発」に邁進し、世界のマーケットに革新性のある製品を提供していきたいと考えます。

昨年、当工業会は大過なく平穏な一年でありました。本年も志を一にするメーカーとの絆を大切に、大いに切磋琢磨し、我が国の文具業界のますますの発展に貢献できるよう引き続き努力してまいります。

末筆ですが、本年が文具業界および会員各社におかれまして躍進の年となりますことを祈念しつつ、本年も日本筆記具工業会に一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年1月

日本筆記具工業会 会長 小川晃弘

平成28年度 年末講演会 「激動する世界～日本の針路を考える」

2016.12.7 上野精養軒にて【講演録】

JWIMA 恒例の年末講演会を12月7日上野精養軒にて開催いたしました。参加者は約80名。

今回は、東京新聞ならびに中日新聞で論説副主幹をお務めになられているジャーナリストの長谷川幸洋氏を講師にお招きし、「激動する世界～日本の針路を考える」についてお話をいただきましたのでご紹介いたします。

【講演録】

ご存じかも知れませんが、私の勤める東京新聞は日本で一番左寄りの新聞です。しかし、その中にいて私は全く違います。完全に逆で、右寄りのことばかり言っているので会議に出ても最近では意見も求められません。今は会社から給料はもらっていますが、会社には行っていません。

さて、本日のテーマですが「激動する世界」と「日本」、この順番が大事です。まず「世界」の動きを見定めたくて「日本」を論じないと、「日本」を先に論じるのは間違っている（針路を誤る）。左翼側は口を開けば「憲法9条を守って平和な日本を...」と言い、右翼側は同様に「清く正しく美しく、天皇を中心として...」と言う。お互い共通しているのは、自分が理想とする日本がまずあるということである。

今、世界では東アジア情勢が注視されており、日本にとっても中国と北朝鮮が脅威となっている。そうではないという左もいるが、本当に中国と北朝鮮が平和愛好国家であるならば日米安保条約は要らない。



アメリカの大統領選挙でトランプ氏が次期大統領に選ばれた。当初は国内産業保護の政策発言で自由貿易が危ぶまれていたが、日本にとっては今円安、株高など神風が吹いており、目先の話と

しては好影響を受けている。ただし中長期的にはそうならないだろうという見方もあるが、これには疑問符が付く。トランプ氏はTPP離脱を明言しており、TPPという形ではなく2国間協定を目指すと言っている。「日米FTA協定」これは受けて立つべきであるし、日本にとってはTPPはアメリカ抜きでも別に良いのではないかと。

日本の新聞では、日米FTA協定はダメだと言っているが、これは従来の日米通商交渉が窓口は経済産業省のはずなのに、大詰めになると外務省がしゃしゃり出て米国に媚びて妥協させられてきたからである。

安全保障の分野も状況が変わってきている。アメリカは弱体化しており、他国の安全を保障するところまで経費が回らなくなっている。トランプ氏は、日本、韓国、ドイツ、サウジアラビアには守ってくれというならその分の経費負担をすべきだと言っている。日本はこの議論に対しても受けて立つべきである。

この安全保障の問題には選択肢が2つあり、1つは「日本独自で防衛を行う」ことである。日本が自前で守っていくためにはいくらかかるのか。少なくとも中国と対等の防衛費予算が必要となる。日本の防衛費は現在、GDPの1%(5兆円)で、中国の防衛費は2%となっている。そして、中国のGDPは日本の2倍規模なので、防衛費は日本の4倍(20兆円)を使っていることになる。つまり、追加すべき経費は15兆円である。

もう1つの選択肢は、トランプ氏が言うように「安保経費の全額負担」である。現在、アメリカ国防総省は日米安保に年間59億ドル使っており、そのうち75%は既に日本が負担してい





はマブダチなんだよ！」と見せつけるようにした。ただし、このことの半分は中国へのけん制も含まれている。

中国に関しては、もうどうにもならない国で、習近平は毛沢東の再来で独裁政権となっている。中国はお金を持っているので欧州でも仲良くする国が増えているが、フィナンシャルタイムズはそれらを幻想だと批判する記事を書

るので、残りは 25%の 15 億ドル（1,500 億円）を追加負担すれば良いことになる。自前でやれば 15 兆円、トランプ案であれば 1,500 億円と安上がりとなる。ただ、これをやると米軍を傭兵化、番犬化するのと同じになる。番犬はご主人の言うことを聞くのが当たり前だが、アメリカはこれは受け入れないだろう。となると、落としどころは「自衛隊の攻撃能力を増強する」ということになるのだろう。日本人自身が「平和」と「安定」について考えるチャンスかもしれない。

北朝鮮は、今年 21 発のミサイルを日本海に打ち込んでいる。日本は先制攻撃できないので、公式見解では北朝鮮のミサイルはパトリオットですべて撃ち落とすと言っている。しかし、迎撃ミサイルの命中率はアメリカの発表ではせいぜい 80%で、4 発は日本国内に命中したことになる。日本も本当は、北朝鮮の移動ミサイル発射施設を叩く能力を身に着ける必要がある。

ロシアは、12 月 15 日にプーチン大統領が日本に来ることになっているが、北方領土の問題等、雲行きが怪しくなっている。トランプ氏はイスラムをたたくのであればシリアもアサド大統領で構わないじゃないかと話しており、プーチン氏とは馬が合いそうだ。今ロシアは日本と北方領土と経済協力の話をもとめる必要があるのかというところへ立ち返っており、トランプ大統領になれば経済制裁も緩和されるのではないかと考えている。安倍総理もプーチン氏の様子が変だと気づき、急きょハワイでオバマ大統領と会い「アメリカと

いている。習政権はおそらく長くは続かないだろう。指導者である共産党幹部自身が国を信用しておらず、家族や財産を外国へ移している。おそらくあと 30 年であの国は崩壊するだろう。

韓国はというと、歴史的に周辺国から絶えず侵略を受け、ここ 2000 年間ずっと強国に寄り添って生きてきた国で、今もその体質は変わっていない。

日本では、安倍政権は、安倍さんがプーチン氏と山口で会って北方領土問題も多少は前に進むだろうし、オバマ氏とハワイで真珠湾戦没者の慰霊を行って支持率は上がっていく。この前、二階さんは「年内解散はない」と言っていたが、年内は無くても年明けはあり得るかも知れない。民進党も「消費増税しろ」とか「マイナス金利やめろ」とか、全く経済政策が分かっていないので任せられない。今のところ安倍政権が続いていこう。（了）



第 13 回「JWIMA 会員研修会」開催

11月8日台東区の上野精養軒にて、第13回 JWIMA 会員研修会を開催しました。この研修会は、会員同士の情報共有と交流をはかるために毎年実施しており、講座も会員のニーズに合わせて各分野のスペシャリストに講師をお願いしています。今回も約70名の会員が出席、それぞれの講義に熱心に耳を傾けていました。

【第一部】 ビッグデータの活用

講師：中小企業診断士／㈱スプラム 代表取締役社長 竹内幸次 氏

経済産業省では、現在500兆円のGDPを2020年に600兆円にする「日本再興戦略」を立てており、その方策の1つである「第4次産業革命」の目玉にIoT・ビッグデータ・AI・ロボットをあげている。



ビッグデータとは、通常のデータベースソフトで扱えないような複雑・多様化した巨大なデータの集まりで、①構造化データ（経理・販売・在庫データなど）と②非構造化データ（文書・画像・動画など）

に分類される。企業が抱えるデータの80%は非構造化データであり、またソーシャルメディア利用者の増大によりインターネット上でも非構造化データが急増し、データ総容量が爆発的に増えている。そのためITベンダーは、「ビッグデータ」を分析・活用するソリューションの開発を急いでいる。

業界や組合活動からは日々様々な情報が発生しており、この情報を強大なデータベースとして活用していくことは、業界や組合の新規事業開発、新サービスの開発、顧客への有効なアプローチの実現、既存取引先の満足度向上など、様々なメリットをもたらすと予想されている。

例えば、組合が所属する産業の法規制情報、顧客層がブログやツイッター等で投稿したキーワード、組合員企業とのメール交流で使われたキーワード、会議等の議事録上のキーワード等が「非構造化データ」であり、これらを分析することが有用と考えられる。

Googleでも簡単に利用できるビッグデータがあるので紹介する。

①Google Trends：入力した単語の検索数を時系

列にグラフで示してくれるので、消費者の関心度のピーク時期や増減傾向が把握できる。

②YouTube Dashboard：YouTubeにあげた自分のチャンネルに対する視聴回数や登録者数などの統計情報を確認でき、その動画に対するコメントを受け取ったり返したりできるので、投げかけた動画に対する反響を知ることができる。

③The Customer Journey to Online Purchase：顧客が商品やブランドを認知してから購入に至るまでにどのような行動をとっているか、業界や国などによってチャンネル（集客手段）がそれぞれどのような役割を果たしているのか、その傾向を知ることができる。

④Motion Portrait：ソニーが開発したソフトで、着物、メガネ、コスメなどのフィッティングシュミレーションができる。

それ以外でも「リーサス (RESAS)」という国が公開している地域経済分析のビッグデータベースがあり、ここには「産業マップ」「人口マップ」「観光マップ」「自治体比較マップ」のメニューがある。例えば「観光マップ」では、ある地域に、1日平均何人の外国人が訪れたか、またこの国の人が多かったか、月ごとの変動はどうなっているか、そこから次にどこへ向かったか、などを検索で知ることができる。「人口マップ」では、どの地域の人口が多いか少ないかだけでなく、人口構成を「年少」「生産年齢」「高齢」と層別し、過去から将来に向かって構成がどう変動して行くか、地域のライフサイクルを読み取ることもできる。リーサスにはまだまだ使いこなせないほどの機能が眠っているので、いろいろ試してみることをお勧めする。

多種多様なモノがネットワーク化された世界では、あらゆる産業分野において膨大なデータをいかに活用するかが競争上重要になってきている。こうした状況を捉えてビッグデータ活用の重要性が叫ばれているが、本質的にはデータ量の多寡や種類を問わず、いかにデータから価値を生み出し、新産業の創出や社会課題の解決につなげるかが鍵となっている。

【第二部】 私にとって「書く」行為とは**講師：ステーションリーディンク・文具コンサルタント／土橋正事務所 代表 土橋 正 氏**

「書く」シーンはいろいろあり、私は考える時 0.7mm のシャープか 2B の鉛筆を使い、原稿を書くときは太字の万年筆を使う。用途によって使うペンが違うというか、決まっている。

「書く」ことは、伝えることだと思っている。手帳に予定を書いたり、ノートにアイデアを書き留めたりするのは、時間が経過した後の自分に伝えるためのものである。

私は思考を巡らせるときよく紙に「書く」が、考える→書く→見る→刺激を受ける→考える...というふうに PDCA のサイクルが常に回っている。このとき刺激が大きいほど次の考えが出やすい。

また、筆記具というのは感情を伝える道具だと思う。筆圧によって強くも弱くも書け、その時の感情がそこに現れる。感情表現に向けた筆記具としては、筆＞黒鉛芯（鉛筆）＞万年筆＞ボールペンの順になる。筆や黒鉛芯には筆跡の不確かさがあり、筆跡が立体になっている。またその分、刺激も大きい。万年筆はインクの濃淡に感情が現れる。ボールペンは線が一定なので正確に情報を伝えるのに便利で、申込書や伝票の記入に用いている。今後、筆記具の機能には、「感情表現ができる」ことが求められるようになるのではないかな。情報だけならパソコンで済む。

「書く」ことで、頭の中に空間をつくることができる。この空間というのはアイデアの源泉で、頭の中に空白部分を作っておくと、そこからアイデアが湧いてくる。アイデアを思いつくのは、散歩していたり、風呂に入っていたり、電車に乗っている時など、適度に身体は使っているがその行為のために頭を使っていない状態の時である。いつアイデアが生

まれるか分からないので、常に手のひらサイズのメモ帳を持参している。私は、机もすっきりと視界に余計なものがないよう空白を作っているし、スケジュールもわざと空白を設けてアイデアが出やすい環境を作っている。



「書く」と「打つ」の違いは？というのと、「書いたもの」には場所があり、記憶に残りやすい。「考える」のに向いている。「打つ」方は、それとは別に「まとめる」のに向いている。用途によって使い分けていくことが必要である。人が「考える」ということをやめない限り「書く」はなくなるだろう。ダンスをやっている人が、ダンスの振り付けを覚えるのにノートに書いて覚えていたそうである。でも、今はもうやめたそうで、理由を聞くと「全部を書きとめられない」からだ。た。「書く」ことは、万能ではなく文字に置き換えづらい分野には向いていないのだ。

筆記具で最近注目しているキーワードは、1つが「ウェアラブル」で、身に着けるスタイルの変化が気になっている。例えばクールビズなどで背広を着なくなったのでペンはズボンなど下半身に携帯するケースが増えている。そうするともっとスリムでショートな筆記具が望まれるようになる。もう 1

つは「単機能」で、日本の筆記具は多機能化が進んでいるが、欧州などでは単機能のものが多く。「多機能」は外での仕事には適しているが、デスクワークでは選ぶという行為が加わるため「単機能」の方が集中できる。あとは「表現力」で、感情が表現できる筆記具の新製品が待たれる。

（以下、質疑応答が続きますが、紙面の関係で割愛させていただきます。）



優良工場見学会 開催

2016.11.22 カゴメ㈱茨城工場、鹿島神宮、愛友酒造㈱

11月22日、日本筆記具工業会は日本鉛筆工業協同組合との共催により「優良工場見学会」を開催しました。参加者は13名。今回は茨城県にあるカゴメ㈱茨城工場と鹿島神宮、愛友酒造㈱の見学を行いました。

カゴメ㈱茨城工場では、はじめに会社の概要や歴史についての話があり、そのあとビデオで製造工程の概略について説明を受けました。

カゴメ㈱は1899年の創業以来、トマトなど自然の恵みがもつ価値を活かした商品の開発・提供を通じて人々の健康的な食生活の実現に貢献してきました。今日では、日本で消費されるトマトの約3割、緑黄色野菜の約1割を供給するに至っています。カゴメ㈱では原料トマトの品種づくりから行っており、トマトジュース用のトマト「凜々子」は中まで赤くりコピンたっぷりの品種だそうです。また、「旬」の美味しさを活かすため、熱を加えない「逆浸透濃縮技術」で採れたての風味を逃さないようにしているとのことでした。



ここ茨城工場では、残念ながらトマトケチャップやトマトジュースは作っておらず、主にチルド飲料（植物性乳酸菌ラブレ、野菜生活100 ホームパックなど）の製造を行っています。「植物性の乳酸菌」って分かりますか？ヨーグルトやチーズなどは、動物由来の発酵食品なので動物性乳酸菌です。それに対して納豆や漬物など植物由来の発酵食品に含まれるのが植物性乳酸菌です。乳酸菌は、植物性の方が酸や塩分など過酷な条件の中でも生息でき、生きて腸まで届く乳酸菌だと言われています。カゴメのラブレに使われている乳酸菌は京都の漬け物の「すぎき」由来とのことでした。

野菜生活100の製造工程は予想以上の長い工程で、①原料野菜投入、②洗浄、③選別、④破碎、⑤搾汁、⑥遠心分離、⑦濃縮、⑧殺菌・冷却、⑨充填、⑩冷凍保存、⑪開け出し・調合、⑫殺菌・冷却、⑬貯液、⑭充填、⑮検査、⑯ケース詰め、⑰冷蔵保管、⑱出荷となっていました。

その後、ラブレや野菜生活100など製品の試飲・試食があり、業務用トマトソースのお土産までいただきました。



午後は、潮来ホテルで昼食をとったあと、鹿島神宮の参拝を行いました。ここ鹿島神宮の創建は、初代神武天皇が即位した紀元前660年で、日本の歴史と共に現在に至る古社中の古社。伊勢神宮、香取神宮と共に日本最上級の格式をもつ。祭神は「武甕槌大神（タケミカヅチのオオカミ）」で、天孫降臨に先立ち大国主命から国譲りの交渉を成功させた武神です。



鹿島神宮はその長い歴史故、藤原摂関家や徳川将軍家を始めとする武家の信仰が篤く、奉納された宝物類もたくさんあります。それらを宝物館で収蔵・展示しています。

境内は広く約70ヘクタールあり、社殿は、本殿、石の間、幣殿、拝殿の四棟で、本殿の奥には御神木もそびえている。それぞれ時間の許す間散策を行い、

さざれ石、奥宮、要石、御手洗池などの見学を行いました。

その後、三番目の見学先である愛友酒造(株)へ移動し、杜氏の方から日本酒の醸造工程と会社の歴史の説明を受けました。

江戸時代に糴づくりからスタートした同社は、当時「糴友(こうとも)」の屋号で親しまれ、いい水、いい米が合わさっていい酒が生まれたとのことでした。ここ最近、モンドセクション金賞を連続受賞しているそうです。もちろん最後は楽しみにしていた試飲があり、わざわざ冷やしておいてくれた樽酒は、味も香りも絶品でした。



平成 28 年 10～12 月期 委員会・部会活動

<総務関係>

- 10.19 総務委員会(平成28年度第3回)
- ・秋～年末の行事計画について
 - ・H28年度上期活動状況報告について
 - ・H28年度上期収支報告について
 - ・H28年度第2回理事会運営について

<調査研究・広報 関係>

開催なし

<流通 関係>

- 11.25 お客様相談窓口連絡会(平成28年度第4回)
- ・各社のお客様対応事例について
 - ・ユーザーマニュアル(ボールペン編)について

<技術国際 関係>

- 10.12 技術国際委員会(平成28年度第2回)
- ・H28年度上期各部会活動報告について
 - ・国際標準化提案活動報告について
- 11.17 ボールペン部会(平成28年度第2回)

・ボールペン ISO 規格メジャー改正の進捗について

・BP 互換性表の更新について

- 11.18 シャープペンシル部会(平成28年度第4回)

・ISO/WD 20318-1, -2(一般用シャープペンシル及びその芯)について

・JIS S 6005(シャープペンシル用しん)の改正について

- 11.21 製品安全小委員会(平成28年度第3回)

・安全関連情報について

・筆記具安全基準について

<JIS 改正 関係>

- 10.14 JIS S 6060(安全キャップ)改正原案作成分科会(第3回)

- 11.11 JIS S 6060改正原案作成委員会(第2回)

12. 8 JIS S 6060改正原案作成分科会(第4回)

<全文協との共催 関係>

- 11.29 知財三団体交流会

..... お知らせ

★平成 29 年 第 16 回通常総会

第16回通常総会の日程が決まりました。

日時 平成29年5月26日(金) 17:00～

場所 上野精養軒にて

※今からどうぞご予定ください。

★平成 29 年度 JIS 改正 予定

- ・JIS S 6005/シャープペンシル用しん

※芯径種類の増加 他

★平成 29 年度 ISO 関係 予定

- ・ISO 20318-1, -2 / 一般用シャープペンシル及びその芯…新規制定

- ・ISO 12757-1/油性ボールペン…改正

- ・ISO 14145-1/水性ボールペン…改正

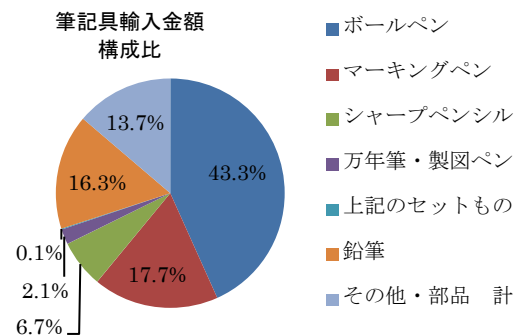
- ・ISO 27668-1/ゲルボールペン…改正

※筆記試験用紙の統一(共用化)

2015 年 アメリカの筆記具輸入状況(米国貿易統計より)

金額:1,000US\$

品 目	数 量	単 位	前年比	金 額	前年比
ボールペン	3,884,296	千本	-0.5%	605,069	1.0%
マーキングペン	1,868,885	千本	17.1%	247,613	5.8%
シャープペンシル	802,197	千本	-0.2%	94,031	0.6%
万年筆・製図ペン	13,575	千本	36.0%	30,057	2.0%
上記組合せ商品セットもの	2,405	千本	15.9%	1,839	-1.4%
鉛筆	28,354,029	GRS	7.5%	227,380	7.1%
完成品計	—	—	—	1,205,989	3.0%
その他・部品計	—	—	—	192,238	-7.2%
合 計	—	—	—	1,398,227	1.5%



2015 年のアメリカの筆記具輸入金額は、全体では前年比+1.5%と微増であった。完成品は+3.0%でそこそこであったが、部品・その他が-7.2%と大きく減少しており全体の足を引っ張っている。

輸入金額構成比の大きいボールペン、

マーキングペン、鉛筆について、筆記具大量輸出国である中国との比較で見ると、日本は 2015 年よく健闘したことが分かる。

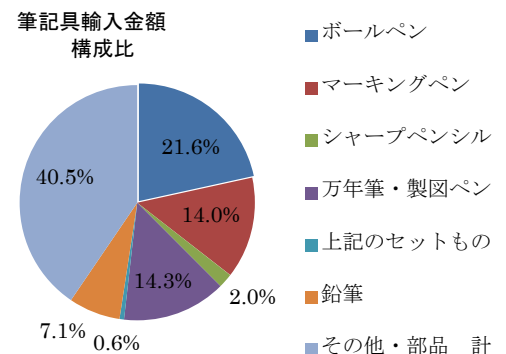
【備考】筆記具全体の米国輸入シェア：中国 42%、日本 20%

輸入先	中 国	日 本
ボールペン	263,250 千ドル／前年比+3.3%	165,024 千ドル／前年比+8.8%
マーキングペン	128,306 千ドル／前年比+6.2%	263,250 千ドル／前年比+13.0%
鉛筆	75,083 千ドル／前年比-1.4%	922 千ドル／前年比+24.8%
筆記具全体	591,381 千ドル／前年比+3.2%	274,781 千ドル／前年比+5.0%

2015 年 中国の筆記具輸入状況(中国貿易統計より)

金額:1,000US\$

品 目	数 量	単 位	前年比	金 額	前年比
ボールペン	94,714	千本	4.9%	38,937	9.7%
マーキングペン	159,087	千本	-9.1%	25,211	-1.5%
シャープペンシル	5,235	千本	64.5%	3,576	52.0%
万年筆・製図ペン	5,550	千本	66.8%	25,803	-0.2%
上記組合せ商品セットもの	155	千本	10.7%	1,124	66.0%
鉛筆	1,205,336	GRS	42.9%	12,804	80.6%
完成品計	—	—	—	107,455	+10.7%
その他・部品計	—	—	—	73,120	-3.7%
合 計	—	—	—	180,575	4.4%



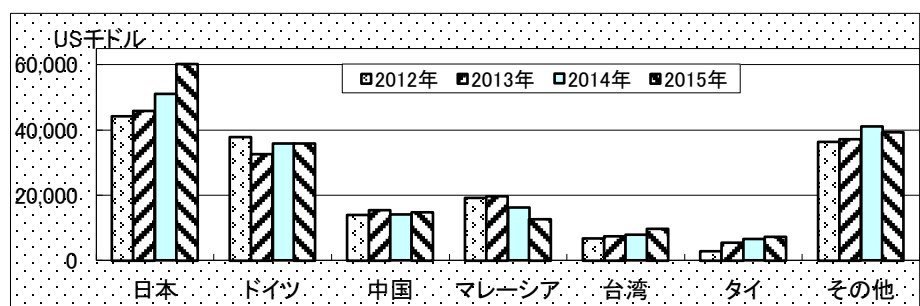
2015 年中国の筆記具輸入金額は 181 百万ドルで、前年に比べて+4.4%増加した。完成品で構成比が大きいのは次のものであるが、それぞれ日本からの輸入金額は伸びている。

【備考】ボールペン(+20.8%)、マーキングペン(+21.4%)、万年筆・製図ペン(+57.8%)

筆記具全体の輸入金額の推移グラフを見ると、日本がドイツを突き放し年々伸びていることが分かる。中国は着実にアメリカに次ぐ大得意先になりつつある。

2015 年筆記具
国別輸入金額の推移

【備考】日本からの輸入金額
60,288 千ドル／+17.9%



※上記資料をご希望の方は、JWIMA 事務局までお申し出ください。